

論点スペシャル

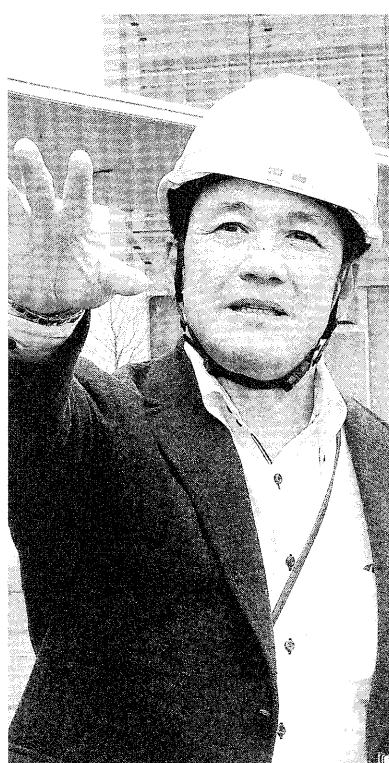
杭データ流用 現場はこう見る

大学卒業後、総合建設会社(ゼネコン)で建設工事の現場監督を務めた。その体験から言えるのは、どんなに立派な設計図が描かれ、きちんと構造計算がなされていても、品質管理の最後の砦は、現場の職人というところだ。

杭データの流用が次々と判明した。現場がデータを流用する気になれば、杭だけでなく、型枠、鉄筋、コンクリートなど、いくらでもごまかすことができる。そうならないためには、職人と監督側が信頼関係を築く必要がある。

現場の職人は、次の作業現場が決まっている。予定通り仕事を片づけ、次へ移動しなくてはならないというプレッシャーを感じている。失敗を報告して、作業を遅らせたく

三原 齊氏
現場監督経験の
ある大学教授



みはら・ひとし ものつくり大学
教授。1級建築士。中堅ゼネコンの
村本建設で工事現場所長などを経て
現職。日本建設業連合会ワーキング
グループの特別委員も務める。53歳。

ないという心理が働く。ゼネ
コンや、自分の会社から二重
に叱られるのもイヤだ。杭打
ちの失敗は、間違いなく隠し
ておきたいものだ。

自分も現場監督時代、杭打

職人と監督 信頼築いて

ちの失敗を体験した。基礎と
杭を作り直すことになって、
200万円ほどの損失を出し
た。だが、現場の職人がきち
んと報告してくれたのは、あ
りがたかった。日頃から意思
疎通や人間関係ができていた
からだと思ふ。

ており、次々と下請けに仕事
を出す。1次、2次下請けぐ
らいまでは、把握できる。し
かし、3次、4次下請けとな
るとそれが難しくなる。

いう特殊な職場だ。
現場の数をこなさず、この人
とならぬ仕事ができると思
込んだら、次の工事でその人
を指名する。こういうマイチ
ームを作るかどうかの仕事
の出来を大きく左右する。

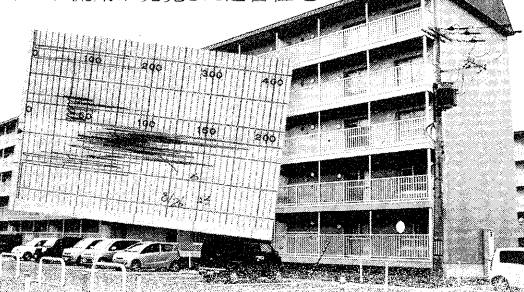
現場の職人は人柄が出
る。速いけれど雑な人もい
れば、もどかしいほどじつじ
つときちようめんにする人が
いる。それをよく見極めないと
いけない。

1、2回現場監督をやった
だけでは、こうしたことまで
はわからない。建設業界はい
ろいろな業者と一緒に仕事を
し、慣れた頃には解散すると

横浜のマンション傾斜問題をきっかけに、杭打ちデー
タの流用が明るみに出た。他の工事や他社での流用も次
々と判明し、人々を不安にさせている。なぜこういうこ
とが起きているのか、どう解決すべきか。建設現場に詳しい
3人に聞いた。

(企画委員 知野恵子、編集委員 岩本洋二)

データ流用が発覚した道営住宅

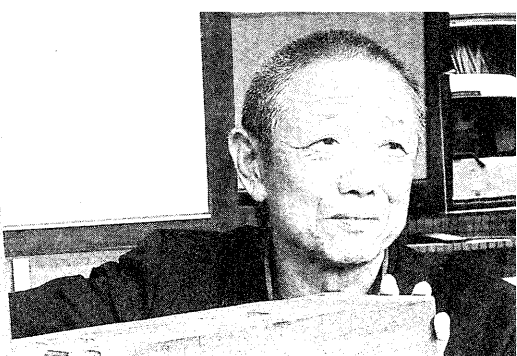


(職芸学院提供)

大工の道に入ってから55年ほ
どになるのかな。俺らが
大工になった時分は、仕事を
受ける、親方と職人で施
主さんの家に行き、建て
る家の話をしながら夕食を
ごちそうになったり、一緒
にお酒を飲んだり。それで、
今というコミュニケーション
がすごく取れる。だから、
職人が手を抜いたりとか
は、あり得なかった。

「作る喜び」もう一度

大工・元棟梁 島崎英雄氏



しまざき・ひでお 日本の伝統木造建築
を手がけ、出身地・富山県八尾町(現・富
山市)の町並み保存にも貢献した。現在は
木造建築や園芸の専門学校、職芸学院(同
市)で後進の育成にあたる。72歳。

何で木材を削る技が発揮
される。そうした職人が腕
前をふるえる分野を未来に
つなげてほしいから、伝統
構法をユネスコ(国連教育
・科学・文化機関)の無形
文化遺産にしてくれと呼び
掛けてきた。

構造設計 もっと重視を

今川憲英氏
構造設計
1級建築士



いまがわ・のりひで 構造設計1
級建築士、1級建築士。構造設計事
務所「TIS&PARTNERS」
代表。東京電機大教授も務める。68
歳。

持ち込むようになった。一層
簡単に様々なデータを取り込
むことができる。事務所の机
を個人が持ち歩くようなもの
で、便利な反面、悪用もしや
すくなった。そうした環境が

ある以上、不正を防ぐには、
検査体制をしっかりとさせるこ
とが欠かせない。

例えば杭打ちの際、施工主
や設計事務所が立ち会うこと
になっている。だが、実際に
は全部に立ち会うわけではな
く、節目節目だけだ。欧米で
は、現場監督が徹底して立ち
会っている。

また最近、日本では、設計と
施工をゼネコンが行うことが
多い。工期短縮とコスト削減
のためだが、設計と施工は本
来、別々の組織でやるべきだ。
ゼネコンは、まず施工あり

柱の太さや鉄筋の本数など
を決める。構造設計の仕事は
40年以上手がけている。地震
国でありながら、施工過程の
検査や構造設計に、時間もお
金もあまりかけていないこと
が気になる。

構造設計
1級建築士

いまがわ・のりひで 構造設計1
級建築士、1級建築士。構造設計事
務所「TIS&PARTNERS」
代表。東京電機大教授も務める。68
歳。

持ち込むようになった。一層
簡単に様々なデータを取り込
むことができる。事務所の机
を個人が持ち歩くようなもの
で、便利な反面、悪用もしや
すくなった。そうした環境が

ある以上、不正を防ぐには、
検査体制をしっかりとさせるこ
とが欠かせない。

例えば杭打ちの際、施工主
や設計事務所が立ち会うこと
になっている。だが、実際に
は全部に立ち会うわけではな
く、節目節目だけだ。欧米で
は、現場監督が徹底して立ち
会っている。

また最近、日本では、設計と
施工をゼネコンが行うことが
多い。工期短縮とコスト削減
のためだが、設計と施工は本
来、別々の組織でやるべきだ。
ゼネコンは、まず施工あり